

が亡くなって、ちょうど 100

台地で茶園を開拓した赤松則良人・ 先駆者で、明治期に磐田原

4 年は、近代日本造船技術の

年になります。磐田の偉人の一

います。 師と仰ぐ勝海舟や近代日本経済の父 の関わりを巡る中で、その生涯を追 といわれる渋沢栄一など明治の英傑 たちなど、赤松則良と多くの人間と たちのほか、遠州地方の豪農や豪商 没後100年を迎えるに当たり

▼とき

雄之進の次男として江戸で生りのした。別良は、江戸幕府の幕臣吉沢

江戸から世界へ

年の今、振り返ります。

生涯を送ったのか、没後100 人である赤松則良がどのような

まれました。そして弘化4年

(1847年) に、父方の祖父で

10月6日火まで、左記開館時間

ある赤松良則の後を継ぎ、

姓となりました。

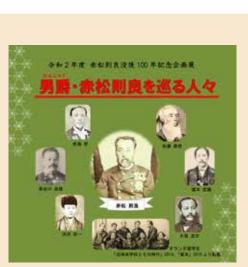
安政4年(1857年)に

▼入場料

旧赤松家記念館 内蔵ギャラリー

海術などを学ぶと、万延元年長崎海軍伝習所に入所して航

(1860 年) には、アメリカと



の知識や技術を学びました。し もに西洋の造船技術や法学など に留学すると、榎本武揚らととその後、幕府の命でオランダ

の運航に尽力しました。

太平洋を横断した咸臨丸で、 務め、日本の軍艦として初めて 使節に随行し、勝海舟が艦長を の修好通商条約批准書交換のしゅうこうつうしょうじょうやく ひじゅんしょ

没後 100 年

磐田の偉人

赤松則良

大政奉還を知ると、留学を中止 かし、慶応4年(1868年)に、 し、日本へ帰国しました。

世保鎮守府の初代長官などの要 船寮長官 を授与され海軍中将となり、明 職を歴任しています。 治政府の海軍整備に尽力し、 治2年(1892 年)の退官後 (1887年)に勲功により男爵 帰国後は造船技術者として明 貴族院議員に当選しました。 横須賀造船所長、 明治 20 年 佐 主



▲佐世保鎮守府長官の則良(前列中央)と幕僚たち

磐田での軌跡

名として静岡藩主となった頃、 江戸幕府崩壊後、 徳川家が一大 現

(参考:磐田市史

通史編

下巻)

在の静岡県内に溢れた2万人も 付へ本籍を移しました。 ぎわったそうです。その後、 年)に競馬場が造られ、大いにに いています。大藤にある則良所有 に取り組み、 の開墾に叔父の宮崎泰道ととも の幕臣(藩士)を養うため、 治26年 (1893年) には、 の茶園には、明治18年(1885 之原など藩内を視察しています。 良は静岡藩士として磐田原、 明治初期からは、磐田原台地 約20診の茶園を開 牧 則 明 見

に貴族院議員職など全ての公職 じました。 年)9月23日、 過ごしていたといいます。こう 孫たちに囲まれ、平穏な生活を を辞しています。晩年は、多くの 則良は、大正6年(1917 則良は大正9年(1920 79歳の生涯を閉 年



▲大礼服姿の晩年の則良

市内に残る則良の遺 産

が残っています。 (1897 年)代に建築した邸宅 (1887年) 代から明治30 市内には則良が、 明 治 20 年 年

現在は、 文化財に、「米蔵」や「図書蔵」 門・塀・土蔵があり、 は市指定文化財となっています。 残した「門・門番所」は県指定 巧みに積み上げて明治の面影を 赤松家にゆかりの品々を展示し、 般公開しています。 旧赤松家に現存する建物には、 旧赤松家記念館として、 レンガを



▲旧赤松家の門・門番所(県指定文化財)

■アクセス

旧赤松家記念館

▼ところ

見付 3884 10

▶入場料

▼開館時間

無料

午前9時~午後4時3分

▼休館日

場合は開館) 毎週月曜 (祝日または振替休日の

年末年始(12月2日~1月3日) 日の場合は火曜日が休み 祝日の翌日(ただし土・日・ 月曜

▼問い合わせ

旧赤松家記念館**公**· W3 - 0340

遠州豊田スマートI.C. ● 磐田I.C. 東名高速道路 見付I.C. 豊田東I.C 磐田北高 旧赤松家 文 磐田 北小 中央 旧見付学校 図書館 見付本通り